

## 2024年度 教員の自己点検・自己評価報告書

|                             |                  |                  |
|-----------------------------|------------------|------------------|
| 所属学部 学科                     | 職位               | 氏名               |
| 教育学部 子ども発達学科                | 教授               | 伊藤龍仁             |
| 最終学歴                        | 学位               | 専門分野             |
| 日本福祉大学大学院社会福祉学研究科修士課程<br>修了 | 修士（福祉マネ<br>ジメント） | 社会的養護<br>子ども家庭福祉 |

### I 教育活動

#### ○理念・目標・方針・計画（方法）

##### 【理念】

「真に信頼して事を任せうる人格の育成」という本学の建学の精神、並びに、「オンリーワンを、一人に、ひとつ」というブランド・コンセプトを具現化するために、子ども家庭福祉分野の専門性と経験を活かしながら、保育・児童福祉現場に求められる人材の育成を念頭に教育活動にあたる。

##### 【目標】

本学の建学の精神を具現化するため、従来の対面授業にオンライン授業の成果を融合した質の高い教育プログラムを開発して実践することが目標である。また、次年度から本格実施する児童厚生員養成課程に伴う教育活動に取り組む。

##### 【方針】

対面授業を重視しながら自然体験活動やフィールドワーク、効果的なオンライン授業を取り入れながら教育効果を高めた授業を実施する。より丁寧な保育実習教育に取り組むとともに次年度以降の児童館実習の準備に取り組む。

##### 【計画（方法）】

- ①保育実習指導系科目は、対面での指導を基本として学外プレ実習に取り組みせながら **Microsoft Teams** によるオンライン指導を取り入れる。次年度の保育実習と児童館実習に備えて配属予定の児童福祉施設等に加え児童館も確保する予定である。
- ②専門演習は、対面指導に加えて **Microsoft Teams** によるオンライン指導を組み合わせながら実施する。専門演習Ⅰ・Ⅱはフィールドワークとグループ指導、専門演習Ⅲ・Ⅳは前期から卒業論文作成に向けた課題に取り組ませたい。
- ③総合演習は、学年全体シラバスに加えネイチャーゲームを取り入れた自然体験授業をゼミ独自で取り組む。
- ④講義科目は、対面授業を中心としながら **Microsoft Teams** によるリアルタイム動画配信とアウトプット・ノートの作成を提出課題とする形態の中に、小テスト並びにディスカッションを取り入れた対話型授業を実施する。

#### ○担当科目（前期・後期）

##### （前期）

社会福祉概論、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ、総合演習Ⅰ、保育実習事前指導ⅠB

##### （後期）

子ども家庭福祉、社会的養護、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、総合演習Ⅱ、卒業研究、保育実習ⅠB、保育実習Ⅲ、保育実習Ⅲ事前事後指導、保育実習指導ⅠB

## ○教育方法の実践

対面授業を中心としながら Microsoft Teams によるオンライン授業を組み合わせながら授業を実践した。また、ディスカッションやフィールドワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングの手法を取り入れながら、双方向的・対話的授業実践を意識して取り組んだ。講義系授業においてはアウトプット・ノートの作成を提出課題と小テストを実施した。

## ○作成した教科書・教材

オンデマンド配信動画と対面授業の補足説明用動画を多数編集・作成した。また、毎回授業におけるスライド資料と補足資料、アウトプット・ノートの原紙等を作成して学生に開示した。「社会福祉概論」「子ども家庭福祉」「社会的養護」の改訂第2版テキストを出版して使用した。

## ○自己評価

概ね計画通りの教育活動に取り組み、一定の教育成果につながった。しかし、今年度の施設実習において、実習直前の辞退者が複数発生した。また、実習の評価が例年よりもやや低くなった点が課題として残った。前年度から「総合演習」で取り組んだ平和公園におけるネイチャーゲームは学生の取り組みも発展しており、保育士・教師を目指す学生の自然体験やスキル向上につながる可能性を見出している。

## II 研究活動

### ○研究課題

少子化と社会的養護の現状と課題に関する研究

### ○目標・計画

#### 【目標】

「オンリーワンを一人にひとつ」というブランド・コンセプトを具現化するために独自の研究活動に取り組む。研究課題それぞれの成果をまとめ、本学紀要並びに学会誌等への掲載を目指す。

#### 【計画】

名古屋市ファミリーホーム協議会、並びに、全国ブロック協議会等の参与観察調査を継続するとともに、宮崎県北部地域における自治体・子育て支援団体等と連携しながら情報収集を行い、その成果を本学紀要論文等にまとめて公表する。

### ○2017年4月から2025年3月の研究業績（特許等を含む）

#### （著書）

- ・秋山展子・朝比奈朋子・伊藤龍仁・牛島豊広・梅田美穂・大野地平・亀田良克・北澤明子・小堀哲郎・佐久間美穂・志濃原亜美・鈴木久美子・玉井智子・土屋昭雄・土田耕司・長瀬啓子・中西編彦・中野陽子・新川泰弘・根本曜子・野口史緒・平澤佐友里・松木宏史・松倉佳子・宮内寿彦・村田恵子・望月隆之・山城久弥・吉野真弓（2024）志濃原亜美編著『みらい×子どもの福祉ブックス 社会福祉 第2版』11-19, みらい。
- ・浅沼裕治・天池洋介・荒井和樹・有尾正子・伊藤龍仁・岩田正人・大谷誠英・金本秀韓・小塚光夫・佐々木将芳・田中高久・谷村和秀・中島健一郎・中村明成・藤林清仁・松岡宏明・松木宏史・武藤敦士・山崎ちひろ・吉田祐一郎・吉野真弓・吉村美由紀・吉村譲（2024）喜多一憲監修，堀場純矢編『みらい×子どもの福祉ブックス 子ども家庭福祉 第2版』114-132, みらい。
- ・浅沼裕治・荒川まゆ・池戸裕子・伊藤龍仁・井上穂乃日・岩崎元彦・岩田正人・加藤潤・加藤智功・倉橋幸彦・小菅ゆみ・児玉あい・児玉俊郎・近藤日出夫・佐々木将芳・関貴教・隣谷正範・橋本喜予・橋本達昌・藤田哲也・藤林清仁・古田優佳・宮地菜穂子・武藤敦士・安田華子・吉田祐一郎・

- 吉田幸恵（2024）喜多一憲監修，堀場純矢編『みらい×子どもの福祉ブックス 社会的養護Ⅰ 第2版』10-28，みらい。
- ・安形元信・天池洋介・荒井和樹・池戸裕子・石垣儀郎・伊藤龍仁・岩田正人・小尾康友・加久保亮平・加藤潤・加藤智功・葛谷潔昭・倉橋幸彦・黒田美希・小菅ゆみ・児玉あい・児玉俊郎・関貴教・田口李奈・谷村和秀・隣谷正範・橋本達昌・早川悟司・藤田哲也・藤林清仁・堀場純矢・水野和代・武藤敦士・武藤佑太・安田華子・山本真知子・芳川龍郎・吉村美由紀・吉村讓（2024）喜多一憲監修，堀場純矢編『みらい×子どもの福祉ブックス 社会的養護Ⅱ 第2版』188-189，みらい。
  - ・丸岡利則・伊藤龍仁・大勝志津穂・鈴木恵三・尚璽華・孫 穎・呂 洋・野口泰司・西尾敦史・渡辺弥生・王亜婷・馬利中・劉衛東・金良泰・上條憲二（2022）愛知東邦大学地域創造研究所編著，地域創造研究叢書（35）『少子高齢社会のヒューマンサービス』2-22，唯学書房。
  - ・伊藤龍仁・川名はつ子・佐賀豪・若狭一廣・前川知洋・栗元貴司・若狭佐和子（2021）社会的養護とファミリーホーム編集委員会編『ファミリーホーム開設運営マニュアル』，創英社。
  - ・浅沼裕治・天池洋介・荒井和樹・有尾正子・伊藤龍仁・岩田正人・大谷誠英・金本秀韓・小塚光夫・佐々木将芳・田中高久・谷村和秀・中島健一郎・中村明成・藤林清仁・松岡宏明・松木宏史・武藤敦士・山崎ちひろ・吉田祐一郎・吉野真弓・吉村美由紀・吉村讓（2020）喜多一憲監修，堀場純矢編『みらい×子どもの福祉ブックス 子ども家庭福祉』109-127，みらい。
  - ・浅沼裕治・荒川まゆ・伊藤龍仁・井上穂乃日・岩崎元彦・岩田正人・加藤潤・加藤智功・倉橋幸彦・小菅ゆみ・児玉あい・児玉俊郎・近藤日出夫・佐々木将芳・関貴教・隣谷正範・橋本喜予・橋本達昌・藤田哲也・藤林清仁・古田優佳・宮地菜穂子・武藤敦士・安田華子・吉田祐一郎・吉田幸恵（2020）喜多一憲監修，堀場純矢編『みらい×子どもの福祉ブックス 社会的養護Ⅰ』10-28，みらい。
  - ・白井克尚・今津孝次郎・伊藤龍仁・堀篤実・柿原聖治・梶浦恭子・新實広記・矢内淑子（2020）サービス・ラーニング委員会編『「サービス・ラーニング」ハンドブック 第6版』，P17，愛知東邦大学教育学部子ども発達学科。
  - ・秋山展子・伊藤龍仁・牛島豊広・梅田美穂・大野地平・亀田良克・北澤明子・小堀哲郎・佐久間美穂・志濃原亜美・鈴木久美子・玉井智子・土屋昭雄・土田耕司・長瀬啓子・中西編彦・中野陽子・新川泰弘・根本曜子・野口史緒・平澤佐友里・松木宏史・松倉佳子・宮内寿彦・村田恵子・望月隆之・山城久弥・吉野真弓（2020）志濃原亜美編著『みらい×子どもの福祉ブックス 社会福祉』11-18，みらい。
  - ・安形元信・天池洋介・荒井和樹・池戸裕子・石垣儀郎・伊藤龍仁・岩田正人・小尾康友・加久保亮平・加藤潤・加藤智功・葛谷潔昭・倉橋幸彦・小菅ゆみ・児玉あい・児玉俊郎・関貴教・谷村和秀・隣谷正範・長棟李奈・橋本達昌・早川悟司・藤田哲也・藤林清仁・堀江美希・堀場純矢・水野和代・武藤敦士・武藤佑太・安田華子・山本真知子・芳川龍郎・吉村美由紀・吉村讓（2019）喜多一憲監修，堀場純矢編『みらい×子どもの福祉ブックス 社会的養護Ⅱ』188-189，みらい。
  - ・白井克尚・今津孝次郎・伊藤龍仁・堀篤実・伊藤数馬・梶浦恭子・新實広記・橋村晴美（2019）サービス・ラーニング委員会編『「サービス・ラーニング」ハンドブック 第5版』，P17，愛知東邦大学教育学部子ども発達学科。
  - ・今津孝次郎・西崎有多子・白井克尚・中島弘道・新實広記・伊藤龍仁・柿原聖治・伊藤数馬（2019）愛知東邦大学地域創造研究所編『地域創造研究業書 No.30 教員と保育士の養成における「サービス・ラーニング」の実践研究』，73-74，唯学書房。
  - ・浅沼裕治・天池洋介・荒井和樹・有尾正子・伊藤龍仁・岩田正人・大谷誠英・金本秀韓・小塚光夫・佐々木将芳・田中高久・谷村和秀・中島健一郎・中村明成・藤林清仁・松岡宏明・松木宏史・武藤敦士・山崎ちひろ・吉田祐一郎・吉野真弓・吉村美由紀・吉村讓（2017）喜多一憲監修，堀場純矢編『みらい×子どもの福祉ブックス 児童家庭福祉』106-123，みらい。

- ・浅沼裕治・荒川まゆ・伊藤龍仁・井上穂乃日・岩崎元彦・岩田正人・加藤潤・加藤智功・倉橋幸彦・小菅ゆみ・児玉あい・児玉俊郎・近藤日出夫・佐々木将芳・関貴教・隣谷正範・橋本喜予・橋本達昌・藤田哲也・藤林清仁・古田優佳・宮地菜穂子・武藤敦士・安田華子・吉田祐一郎・吉田幸恵(2017) 喜多一憲監修, 堀場純矢編『みらい×子どもの福祉ボックス 社会的養護』10-28, みらい.

(学術論文)

- ・伊藤龍仁(2022)「日本における「子ども虐待」とその家族的背景」(2022)伊藤龍仁,『少子高齢社会のヒューマンサービス』地域創造研究所蔵書(35)2-22,唯学書房.
- ・伊藤龍仁(2022)「ファミリーホームの限界と可能性を問うために一問題提起」『社会的養護とファミリーホーム』(12) 12-19, 創英社.
- ・若狭一廣・伊藤龍仁・佐賀豪・前川和洋・川名はつ子(2021 予定)「緊急座談会 新型コロナウイルス禍でのファミリーホーム」『社会的養護とファミリーホーム』(11) 49-57, 創英社.
- ・伊藤龍仁(2018)「ファミリーホームの人材確保と育成について」『子どもと福祉』(11) 26-29, 明石出版.
- ・伊藤龍仁(2018)「新ビジョンよ何処へ行く」『社会的養護とファミリーホーム』(8) 32-40, 創英社.
- ・浅井彰子・伊藤龍仁(2017)「乳幼児の言葉の発達と絵本の楽しみ～「親子で絵本を楽しむ会」の取り組みを通して～」『東邦学誌』(46-2), 113-125, 愛知東邦大学.

(学会発表)

- ・伊藤龍仁(2022年9月6日)「ファミリーホームとは何か?」(動画)第16回ファミリーホーム全国研究大会オンデマンド特別配信.
  - ・伊藤龍仁(2019年6月29日)「積養護論」を振り返りながら子どもの養育と自立を考える」第48回『全国児童養護問題研究会全国大会(岐阜大会)(岐阜聖徳学園大学)』シンポジウム「子どもの最善の利益を実現する社会的養護」報告.
- ・伊藤龍仁(2019年2月28日)「日本の少子化・子どもの貧困・虐待問題」『少子高齢社会における日中の子どもの健康と福祉のこれからを考える』愛知東邦大学地域創造研究所・復旦大学人口研究所共催研究例会報告(中華人民共和国,上海復旦大学).
- ・伊藤龍仁(2018年10月6日)「家庭養護における「公」と「私」の相互関係とバランスーファミリーホームの措置委託と措置解除に着目してー」日本福祉大学大学院博士課程論文構想発表会.

(特許)

(その他)

- ・伊藤龍仁(2025年3月23日)宮崎県延岡市『のべおか風と土の学校セミナー「子どもたちとハピ声スマイル!～ネイチャーゲームで自然の中へ!」』一般社団法人のべおか風と土の学校.
- ・伊藤龍仁(2025年3月16日)日進市民会館小ホール『NPO法人Rin20周年記念講演「子どもたちが笑って暮らせるまちづくり～自立支援から独立共生へ～」』NPO法人Rin.
- ・伊藤龍仁(2025年3月11日)『ハピ声スマイル研究室HP』<https://happyvoicesmile.com/>, 公開, ハピ声スマイル研究室.
- ・伊藤龍仁(2024年5月3日)オンライン講座『のべおか風と土の学校オンラインセミナー「生と死の狭間から子どもたちの未来に向けて」』一般社団法人のべおか風と土の学校.
- ・「平成30年11月 仙台市立小学校2年生女子児童の死亡事案 調査報告書(答申)令和4年12月6日」(2022)仙台市いじめ問題専門委員会.
- ・伊藤龍仁(2022)「2022子どもアドボケイト専門講座 訪問前研修報告書 ファミリーホームとは」

一般社団法人子どもアドボカシーセンターNAGOYA.

- ・伊藤龍仁（2019年3月23日）「里親制度の可能性を考えるーファミリーホームの実践をとおしてー」なくそう！子どもの貧困ネットワークあいち連続学習会（31）（名城大学ナゴヤドーム前キャンパス）

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

○所属学会

- ・社会事業史学会
- ・東海社会学会
- ・日本福祉大学社会福祉学会
- ・日本社会福祉学会
- ・全国児童養護問題研究会
- ・日本ファミリーホーム協議会

○自己評価

本年度は体調が不十分ではあったが「少子化と社会的養護の現状と課題に関する研究」としてファミリーホーム関係の参与観察調査を継続しつつ、宮崎県高千穂町～延岡市の現地調査を実施した。研究成果として論文の執筆には至らなかったものの、著作4冊の改訂版出版と、ハピ声スマイル研究室の開設、並びに、ホームページ公開、ハピ声スマイル指数（HVSI）の開発等の成果につながった。

### Ⅲ 大学運営

○目標・計画

#### 【目標】

「真に信頼して事を任せうる人格の育成」という建学の精神及びブランド・コンセプトを具現化するため、与えられた職責を「真面目」に全うすることを大学運営についての目標とする。

#### 【計画】

大学、並びに、学部で与えられた役割に対して責任を果たすとともに、オープンキャンパス模擬授業担当者として学生募集状況の改善に貢献したい。

○学内委員等

- 教育学部会 委員
- 教職支援センター運営委員会 委員
- 教養教育委員会 委員

○自己評価

今年度の大学運営に関しては概ね目標を達成し職責を全うできた。とくに、計画したオープンキャンパスの模擬授業において、総合演習のゼミ生と共にネイチャーゲームを取り入れたロールプレイを実演し好評だった。

### Ⅳ 社会貢献

○目標・計画

#### 【目標】

専門分野を生かした社会貢献活動に積極的に取り組むことにより、「真に信頼して事を任せうる人格の育成」を掲げる本学の社会的な認知・信用の向上に貢献することが目標である。

## 【計画】

- ①名古屋市ファミリーホーム協議会会長・ファミリーホーム事業者として名古屋市の児童福祉事業に貢献する。
- ②日本ファミリーホーム協議会の東海北陸静岡ブロック担当理事として社会貢献する。
- ③日進市子ども施策推進委員・子どもの権利擁護委員として日進市の児童福祉施策に貢献する。
- ④名古屋市里親委託等推進委員会委員・社会的養育推進計画会議委員として名古屋市の児童福祉施策に貢献する。
- ⑤社会福祉法人「桜友会」評議員として法人並びに福祉施設の運営に協力する。
- ⑥子育て支援や社会的養護、いじめ問題等の講師活動を担う。

### ○学会活動等

昨年度に引き続き日本ファミリーホーム協議会東海北陸静岡ブロック協議会理事として日本ファミリーホーム協議会全国運営委員会に参加した他、宿泊研修会を企画して実施した。

### ○地域連携・社会貢献等

日本ファミリーホーム協議会東海北陸静岡ブロック担当理事、名古屋市ファミリーホーム協議会会長、日進市子ども施策推進委員会委員長、日進市子どもの権利擁護委員会委員、名古屋市里親委託等推進委員会委員、名古屋市社会的養育推進計画会議委員、愛知県児童厚生員研修会講師、及び、社会福祉法人桜友会評議員としての地域・社会貢献を行った。日進市の子ども施策推進委員会においては「第三期日進市子ども・子育て支援事業計画」を委員長としてとりまとめ、名古屋市社会的養育推進計画会議においては「第2期名古屋市社会的養育推進計画」の策定に貢献した。この他、日進市の子育て支援NPO法人、宮崎県延岡市の子ども子育て支援法人等と連携して社会貢献を行った。

### ○自己評価

今年度は多くの社会的役割を果たして目標を達成した。特に、日進市と名古屋市における子ども子育て・社会的養育分野の事業計画策定に際して大きな役割を果たすことができた。また、名古屋市ファミリーホーム協議会の会長として名古屋市の家庭養育推進に向けて役割を果たした。

## V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

日本シェアリングネイチャー協会主催の「シェアリングネイチャーウェルネス研修会」に参加して適切な自然体験が大人のリフレッシュにつながることを理解した。

## VI 総括

今年度は研究分野において学術論文の執筆には至らなかったものの、複数の書籍出版と「ハピ声スマイル指数（HVSI）」の開発という成果が生まれ、次年度以降の研究計画の具体化が進捗した。昨年度から取り組み始めたネイチャーゲームは、研究や教育活動にも活用しながら大学運営や地域社会貢献にも役立っている。次年度は本格的な「ハピ声スマイル指数（HVSI）」の研究と実践を基軸に全体の計画を具体化し、教育活動・大学運営・社会貢献にも役立てながら論文執筆や電子書籍出版を目指す。

以 上